

地域づくり委員会出前講座についての報告

中川町役場住民課幸福推進室
天内 美穂

経緯

令和5年3月27日開催の

「令和4年度名寄市障害者福祉サービス等
利用計画点検事業」

がきっかけ。

中川町在住の視覚障がい者（Kさん）の今後について相談

Kさんについて

- 50代女性
- 85歳の父と83歳の母と 3 人暮らし
- 20代に緑内障と診断され徐々に視力低下
- 現在は拡大鏡を使い何とか文字が読める程度
- 居宅介護と同行援護を利用
- 父母に何かあった場合の生活について、生活できないと理解はしているがイメージができないと現状維持を望む。

今後のイメージを持ってもらうために

かみかわ相談支援センターねっとの安井さんから、ピアカウンセリングとして、同じ経験をしている方からお話をいただくのはどうかと提案をいただく。



Kさんに確認すると、お会いしたいと前向きだったため、安井さんを通じて 障がい者が暮らしやすい地域づくり委員会に派遣を依頼。開催に向け打合せを実施した。

開催日時

令和5年8月18日（金）

①懇談会（視覚障がい者への支援）

10：30～12：00

②出前講座

～知ろう、聞こう、「笑顔になれるバリアフリー」～

13：30～15：30

①懇談会

- ・ 中川町支援対象者 Kさん、ヘルパーさん
- ・ 地域づくり推進員
地域づくり委員会委員 五十嵐真幸氏（車椅子ユーザー）
館石昌浩氏（盲導犬ユーザー）
盲導犬メイちゃん
- ・ 酒井弁護士事務所 酒井将平弁護士
- ・ かみかわ相談支援センター ネット 安井博子センター長
松尾哲相談支援専門員
木全美樹相談支援専門員
- ・ 上川総合振興局保健環境部社会福祉科 影山章課長
樋口直人主査
大門星里那主事
- ・ 中川町役場幸福推進室 赤堀専門員
天内主事

- ・ 自己紹介（13名）
- ・ 舘石さんの活動等を詳しく話してもらう
- ・ Kさんから、自分のことや気持ちを話してもらう
- ・ ざっくばらんな会話

話しやすい環境を作るため、テーブルを囲むような配置にし、お茶やお菓子を用意しました。



舘石さんからのお話

- ・病気がわかり、将来的に視力を失うと診断される。障害者職業センターに仕事を続けられるように相談し、工夫をしながら継続した。
- ・北海道盲導犬協会で白杖の使い方や身の回りの訓練、ちょっとした工夫を教えてもらう。白杖は自己流の時と違い利用しやすくなった。自分でできる自信がついた。
- ・札幌で月1回のサロンにも参加。悩みを言い合いそれぞれしている工夫を教え合ったり、地下街で歩行訓練をしたりと当事者同士が仲良くなる。

- ・旭川でも2か月に1回サロンを実施。イベントを行ったり、盲導犬協会からの協力を得て白杖の使い方や盲導犬と歩くイベントを行っている。コロナ後はzoomを使いロービジョンケア旭川を開催し、遠方の方も参加しやすくなっている。
- ・盲導犬協会の見立てで、冬に一人で歩くのは危険なため盲導犬がいた方がいいということになり、訓練をして10年前から盲導犬ユーザーとなった。
- ・白杖に比べると歩きやすい。家族も盲導犬と一緒にの方が安心する。盲導犬と一緒にだと単独でも札幌サロンに行くことができ、JR→地下鉄→バスと自由に乗り換えられる。

Kさんからのお話

- ・ 20代後半に病気がわかり発症から30年くらい。
- ・ ロービジョンケアのことは病院の視能訓練士から聞いたことがあるが、距離や移動の面から参加できなかった。配信されているなら私でも聞ける。
- ・ 目が見えづらくなってからおいてきぼりを感じる。
- ・ 便利なものがあるのに、どう使っていいのか、誰に聞いてよいのかわからない。

ざっくばらんな会話

- ・盲導犬協会の生活訓練は全道すべての地域に出張している。住み慣れた地域での訓練は生活の幅が広がる。
- ・視覚障がいに対してiPhoneは充実している。点字ではなくIT技術が進みいろいろ開発されている。
- ・全盲の方でスマートフォンの使い方を個人的にも教えてくれる人がいる。グループラインを使ってIT機器の使い方の勉強会を月1回行っている。
- ・札幌では有償ボランティアがサポートしてくれる。ボランティアの養成が必要になるが、誘導等の講習会等があると支援を受ける側の安心感が全然違う。

②出前講座

目 的：「合理的配慮」が義務化され、障がいのある人に対する地域の役割がさらに期待される中、障がいについての知識や理解を深め、みんなで支えあえる地域になればいいなという思い

対象者：中川町役場職員
社会福祉協議会職員
民生委員児童委員
身体障害者福祉協会会員

- ・ 住民課長挨拶
- ・ 中川町の障がい者の現状を説明
- ・ 【講演】 酒井将平弁護士
「障害者差別解消法の概要」
- ・ 【当事者の声】
車いすユーザー 五十嵐真幸 氏
盲導犬ユーザー 舘石 昌浩 氏
- ・ グループワーク



【講演】 障害者差別解消法の概要

- ・ 禁止される差別には2つある。
 1. **不当な差別的取り扱い**…障がいを経由とする排除、区別、制限
 2. **合理的配慮の不提供**……実質的な平等を確保するために必要な合理的配慮を行わないこと。
- ・ 国の行政機関や地方公共団体に対して
不当な差別的取り扱い・障がい者への合理的配慮の不提供はいずれも禁止。（法的義務）
- ・ 民間事業者に対して
不当な差別的取り扱いが禁止。（法的義務）
合理的配慮については、提供が努力義務だったが2021年改正法により法的義務化。※**令和6年4月1日に施行**

1. 不当な差別的取り扱い

障がいを理由とする排除、区別、制限によって権利や利益が侵害された場合、原則差別となるが、**正当な理由**がある場合は例外。→**正当な理由の判断が重要**

< **正当な理由**の判断のポイント >

◇国が定めた基本方針◇

『財やサービスや各種機会の提供を拒否するなどの取り扱いが客観的に見て正当な目的の下に行われたものであり、その目的に照らしてやむを得ないと言える場合』

◇判断の要素◇

『個別の事案ごとに、障害者、事業者、第三者の権利利益（例：安全の確保、財産の保全、事業の目的・内容・機能の維持、損害発生防止等）及び行政機関等の事務・事業の目的・内容・機能の維持等の観点に鑑み、具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断することが必要』

2.合理的配慮の不提供

- ①障がいのある人から何らかの配慮を求める意思の表明があった場合
 - ②過重な負担にならない限り
 - ③社会的障壁を取り除くための必要で合理的な配慮を求められる
- ※過重な負担になる場合は、合理的配慮の提供義務がない
→『過重な負担』とは…？

< 過重な負担の判断のポイント >

◇国が定めた基本方針◇

個別の事案ごとに、以下の要素等を考慮し、具体的場面や状況に応じて総合的・客観的に判断する。

- ①事務・事業への影響の程度（事務・事業の目的・内容・機能を損なうか否か）
- ②実現可能性の程度（物理的・技術的制約、人的・体制上の制約）
- ③費用・負担の程度
- ④事務・事業規模
- ⑤財政・財務状況

※過重な負担にあたると判断した場合は、その理由を説明するものとし、理解を得るよう務めることが望ましい。

差別判断のポイント（まとめ）

(1)最初に「差別的取り扱い」にあたるか考える

→差別的取り扱いの判断

- ①「異なる取り扱い」を受けたといえること、
- ②異なる取り扱いが「障がいを理由とする」ものであるか検討。

(2)次に、正当な理由があるか否かを検討する。

→差別的取り扱いがある場合

- ①客観的に見て正当な理由があるか否かを検討する。
- ②その目的に照らしてやむを得ないと言える場合であるか検討。

※異なる取り扱いが行われていない場合でも、配慮の提供がなければ、実質的には不平等な取り扱いになる。

障がいのある人が
来店したときに…

障がいのある方は
入店できません



売り場まで
ご案内します



差別的取り扱い

正当な理由なく、障がいを理由にサービスを断ることや障がいがない人には付けない条件を付けることは禁止です。

合理的配慮の提供

負担が重すぎない範囲の対応が求められます。

混雑時等で付き添いが過重の負担になる場合は配慮の提供義務に反しないと考えられます。

【当事者の声】車椅子ユーザー五十嵐さんのお話

- ・自己紹介や自身の活動紹介
- ・車いすユーザーの困ったことあるある
 - ➡障がい者専用の駐車場にコーンが置いてある！
一般の人が停めないように置いているのだと思われるが、障がい者本人が運転していることを想定していない。
 - ➡セルフレジが使いつらい！
一般の人が便利になったと感じるものが、障がい者にとっては不便であることも多い。

- ・ 実際に車を運転している車いすユーザーの乗り降りの様子の動画を視聴。
 - ➡生活のしづらさや負担がありながらも工夫と努力で補っている力強さを感じた。
 - また、乗り降りにスペースが必要なことから、障がい者専用駐車場が狭くては意味がないという話を聞き、目的を理解することが大切で、知る機会をつくる必要性を感じた。
- ・ 車いすユーザーといっても、立つことも歩くこともできる人がいて皆違う。一人ひとりの特性を理解してほしい。

【当事者の声】 盲導犬ユーザー 舘石さんのお話

- ・ 自己紹介
- ・ 日常生活のお話
盲導犬と一緒にいると、「お手伝いしましょうか？」と声掛けしてくれる人が増えた。JR職員も研修を受けているらしく、段差や曲がるとときに事前に声掛けしてくれたり、誘導がわかりやすくなった。
- ・ 視覚障がい者の実は…
視覚障がい者というと点字と思うかもしれないが、今点字がわかる人は1割程度。読み上げ機能があるパソコンやスマホが普及している。音声のサービスが増え、視覚障がい者をサポートしている。

Kさんからも一言

- ・役場でマイナンバーの手続きをする際、記載するところが多くいろいろ大変だったところを役場職員に手伝ってもらった。
- ・何かあったときに、どこに相談に行ったらよいかわからないことが多い。

グループワーク

1 グループ 4 ～ 5 人

- ・ 自己紹介
- ・ 今日の感想
- ・ 酒井さん、五十嵐さん、
舘石さんがそれぞれの
グループに入り質問やお話



グループワークの感想

- ・セルフレジが大変だとは知らなかった。
- ・障がい者の方を見かけて声掛けしたいと思っても、どのタイミングで声掛けしてよいかわからなかったが、講師の方からいつでも嬉しいと言われほっとした。
- ・Kさんがどこに相談したらよいか悩んだという話を聞き、総合相談窓口のような存在が必要だなと思う。
- ・仕事の中で代筆する機会が多く法的にいいのか悩んでいたが、弁護士さんに確認できてよかった。
- ・中川で、子どもの車いすユーザーがいたら対応できるのか、できないのではないかと不安。まだまだ足りないことがあると感じる。

ご清聴ありがとうございました。